

難波津の歌？

平城宮跡第二一次発掘調査で内裏東側の大溝（SD二七〇〇）から出土した墨書土器。土師器の高杯の杯部の外面に墨書している。

「奈」「尔」「佐」「久」「夜」「九」等の文字がみえる。あるいは「難波津に咲くやこの花」の歌を記したものか。「九」は「奈」「尔」「佐」「久」とは別筆で、他の文字は楽書だが釈読できない。

難波津の歌を記した墨書土器は、平城宮から他に二点出土している。一点は平城宮外の二条大路と東一坊大路の交叉点付近の宮東面外堀で「仁波都／奈」と読め、また他の一点は推定第一次大極殿院地区の北方の官衙地区にあった井戸から「^{〔川カ〕}尔佐／波奈尔／久^{〔夜カ〕}」と読めるものがある。

（参考文献 奈良国立文化財研究所『平城宮出土墨書土器集成』参照。本文は同報告書の一部訂正した。）

